

## 令和5年度 岐阜市障害者総合支援協議会 第6回専門部会（テーマ別分科会） 議事要旨

日 時	令和5年12月13日（水）15：30～17：00
場 所	岐阜市役所 6階 6-1 大会議室
出席者	関係団体 3名
	関係機関 8名
	障害児通所支援事業所、障害児入所施設等 4名
	一般・特定・障害児相談支援事業所 10名
	指定管理、委託事業所 5名
	（合計 30名）

### ○検討テーマ…

「医療的ケア児等への支援について～医療的ケア児・者及びその家族が安心して暮らすために～」

近年、医療的技術の進歩等を背景に、在宅で生活する医療的ケア児が増加していることを踏まえて、岐阜市では、これまでも医療的ケア児等をテーマにした専門部会を開催し、医療的ケア児に関する理解や現状の課題を把握し協議してきた。

今回は、医療的ケア児について、岐阜市における制度、保育所等や学校における医療的ケア児の対応について理解し、当事者団体から実際の活動を知る機会とした。さらに多くの医療的ケア児とその家族が、有効的に社会資源を活用するために何が必要かを協議した。

#### 1. はじめに

- ・岐阜市障害者総合支援協議会の概要
- ・第6回専門部会（テーマ別分科会）の趣旨や流れについて

#### 2. 岐阜市における医療的ケア児者の相談窓口、制度等について

- ・岐阜市の相談窓口等について【資料1】
- ・保育所等における医療的ケア児への対応について【資料2】
- ・学校における医療的ケア児への対応について【資料3】
- ・障がい者団体（ギフアライン）について
  - ・団体の活動内容
  - ・会員（医療的ケア児等、家庭）の生活状況と困りごと等

#### 3. グループワーク

さまざまな制度、相談窓口、関係団体を医療的ケア児・者へ周知し、社会資源（フォーマル、インフォーマル含む）を活用していただくために何ができるか参加者で協議する。

<意見>

- ・一人の職員の『できるんじゃないか』という一言や思いで受け入れ体制を作り上げた法人（事業所）もある。本日の協議会等の内容や意見を現場（所属先）で共有していくことで、対応可能な事業所が増えていくのではないかと。
- ・制度等はあっても、条件（親の付添いがないと利用できない等）により利用できるもの（事業所）は少ない。

- ・本人やご家族の気持ちの部分の孤独に支援者がどのように寄り添っていくか、今一度考える機会になった。医療的ケア児・者への支援について、協議会などを通じて岐阜市の支援や仕組みを考えていく必要がある。
- ・本人の退院カンファレンスに医療機関のソーシャルワーカーから関係機関に声がかり、参加することで、社会資源の利用につながっている。一方で、医療的ケアの社会資源や関係機関について、あまり把握できていない医療機関（ワーカー）もあるため、広報・周知が必要である。
- ・相談窓口であることを医療機関へ情報発信している。
- ・医療的ケア児の相談先は、教育・福祉・医療など多機関にまたがるため、相談窓口の連携も必要。
- ・相談は、ライフスタイルに合わせて持続的に行っていると良い。
- ・医療的ケア児は、必ず医療機関の関わりがあるため、医療機関から一つの機関へつながり、全数把握していけると、そこから行政の横のつながりができ、学校等へつないでいくことができるのではないかな。
- ・親同士のつながりから情報は得られたが、相談窓口が見つからず困った。ワンストップで支援が受けられるような相談先があるとよい。
- ・家族同士の横のつながりが希薄になっている。自分に必要な情報を選んで手に入れられるような情報発信方法があるとよい。スマートフォン等のアプリがあれば、情報をスムーズに発信・受信できるのではないかな。
- ・関係団体では SNS 等を用いて、医療的ケアの情報発信を行っている。

#### 4. まとめ

- ・本人やご家族の気持ちの部分の孤独に支援者がどのように寄り添っていくかを考え、協議会などを通じて岐阜市の支援や仕組みを検討していく必要がある。
- ・社会資源の利用につながっていくよう、医療機関へ相談窓口の情報を発信していく。教育・福祉・医療など多機関にまたがるため、相談窓口間でも連携していく。ワンストップで支援が受けられるような相談先があるとよい。
- ・スマートフォン等のアプリにより、情報をスムーズに発信し、自分に必要な情報を選んで入手できるのではないかな。

#### 5. 当日の様子



## 6. 当日アンケートの結果

### ①本日の専門部会について

良かった	… 31.3%
概ね良かった	… 43.7%
普通	… 25.0%
あまり良くなかった	… 0.0%
良くなかった	… 0.0%

### ②本日のご感想・ご意見

- ・保護者の意見を直接聞く機会になり良かった。
- ・やはり当事者の方のお話は尊い。
- ・当事者のお話が聞け、既存の資料の周知不足、支援や情報共有の途切れなどの問題があると改めて感じた。また、他職種の働きかけの方法についても知ることができた。
- ・医療的ケア児について、現在の問題点や今後の展開について学びになった。
- ・就園、就学の流れなど、今一度確認できてよかった。
- ・保護者の方や相談支援専門員など色々な立場の方から状況や課題となっていることなどを聞くことができてよかった。
- ・当事者だけでは潰れかねない。医療、福祉、教育等の多職種での支援が必要。それらをつなげるセンターの必要性を感じる。
- ・看護師採用の困難さがあるが、豊中市では市民病院と連携して看護師を派遣している。
- ・小児慢性疾患は、障がいとは重ならない部分もあるが、自立支援や移行期医療支援など、同じように課題となっている部分もある。今後も協議会に出席していきたい。
- ・行政主体で受け入れや事業所設立の援助をして欲しい。
- ・会で出た意見が市の政策にどのように反映されていくのか、障がい福祉課の考え方など、今後の展開についても報告があるとよい。

### ③現在の医療的ケア児の支援についての対応状況

現在支援している	… 75.0%
以前支援している	… 12.5%
支援したことがない	… 12.5%

### ④今後の医療的ケア児の支援についての対応の予定

可能な範囲で支援する	… 81.3%
状況に応じて検討する	… 18.7%
支援は難しい	… 0.0%

### ⑤医療的ケア児・者に関わるなかで課題と感じていること

- ・つながりがあまりない。
- ・病院と行政との連携不足。行政間の情報共有不足。
- ・医療的ケア児等コーディネーターが育たないこと。

- ・医療、福祉、教育の連携が課題。全体をコーディネートするのは、コーディネーターの役割だが、支援者1人1人の動きによるところもある。市の中核を担うセンターが必要。
- ・どこに相談してよいかわからない。医療福祉教育の連携が薄い。多職種の連携による相談できる機関があればと願う。
- ・市として医療的ケア児支援センターが必要。市の窓口が一本化された方がよい。
- ・短期入所の事業所が少ない。利用時の送迎や準備の負担が大きい。
- ・新たに始めようと考えているが、報酬面等で考慮すると立ち行かなくなりそうで不安。
- ・中間度のお子さんの事業所が少ない。動けて医療ケアの子は重心の事業所では物足りない。看護師がいないと駄目であるに行ける事業所が少ない。
- ・学校も12月過ぎてから看護師募集して、いなかった場合どうなるのか。
- ・移行期（医療）支援を含めた自立支援、きょうだい支援、学習支援（治療等により学習の機会などが得られないため）が課題。
- ・医療的ケアといわれている幅が広い。重心の入所についての棲み分けを他施設と共有し、どのくらいのレベルのお子さんを何処が受け入れるのかを整理する必要がある。
- ・個別性があり、利用できるサービス提供事業所がどこにあるかわからない。医療的ケア受け入れ可能な事業所、居宅介護、重度訪問介護、訪問看護、児童発達支援、放課後等デイサービス、生活介護事業所等がわかるような一覧を作って欲しい。
- ・ライフステージが変わる時の家族の不安と負担。制度があってもサービスが使えないことがある。
- ・主たる介護者の方が病気や高齢になったりした時にどうしていくとよいのか。

#### ⑥障害者総合支援協議会（テーマ別分科会）で、今後取り上げて欲しいテーマ、内容等

- ・引き続き、医療的ケア児等の支援について。
- ・防災について。
- ・医療的ケア児等コーディネーターを育てるためにどうするか。
- ・各保育園、保育所、幼稚園、学校の受け入れ状況を細かく知りたい。
- ・受け入れも大事とは思いますが、各分野の事業所の在り方など。
- ・地域包括支援ケアシステムの構築。
- ・幼児→児童→生徒→成人とつながりを持ってチームとして支援していく必要性。
- ・他機関で連携した具体的な事例があるとイメージが付きやすく、支援策を考えやすいと感じた。
- ・専門部会で出た内容が、きちんと上に上がって検討されているのか、フィードバックして欲しい。
- ・毎回、話し合われたことが、どのように岐阜市に届き、どのように検討されているのか示していただきたい。